

「求める」

神様を信じている、でも私の心は神様に向かない。

クリスチャンになったけれど、私は他の人たちのようにうまくお祈りできないし、聖書のことを知らないし、わからないし、神様のことを忘れてしまうことだってたくさんある…

そんな思いになることがあります。

最近、ふと高校生のときに聞いたお話の内容を思い出しました。

『クリスチャンになったら完璧な人間になれるというわけではない。むしろ、神を知り自分の罪に気づくことで、人生が下降していくように感じるかもしれない…』

そんな内容だったと思います。

たしかに、そうなのかもしれません。クリスチャンになるまでは神様を知らなくて、祈ることもせず、聖書を読むこともしない、神様のことなんて意識せずに生きてきました。

でも、今は神様のことを知っている。だから神様のことを考える。聖書を読む。祈る。

でも、常に神様のことを考えているわけではないし、お祈りを忘れてしまったり、聖書を読むのを後回しにしてしまったりすることだってあります。

人と比べてはいけないということはわかっている、人と自分を比べてしまいます。

あの子はたくさんお祈りしているし毎日聖書をたくさん読んでいるらしい…とか。

そうすると、自分がどれだけ神様から離れているか、どれだけ私の心が閉ざされているか、ということに気がきます。

クリスチャンになって、神様を意識することが増えて、聖書を読んだり、お祈りしたりするようになって、少しずつではあるけれど、自分の信仰は成長しているのかもしれません。

しかし、それと同時に自分の弱さや罪が見えるようになってきました。

先ほどのお話の終わりはたしか、こんなだったと思います。

『しかし、私たちがどんなに神様から離れていても、神様は私たちの手を離さずにつかみ続けていて、離さない…』

最近、新たな信仰の友や祈ってもらう機会を与えられることが多々あります。

そんな時、どんなに私の心が神様から離れていても、神様は私の手を離さずにつかみ続けてくださっているのだと感じます。

ルカによる福音書 11 章 9 節には、『求めなさい。そうすれば与えられます。』とあります。

神様は私の手を離さずにつかみ続けてくれているのだから、私が神様を求めれば、神様は答えてくれるはずです。

そうすれば、私の心が変えられて、もっともっと豊かな信仰をもつことができるようになると思います。

もっともっと神様を求める者となることができますように。